

教えて!

vol.67

市立病院

テーマ

脳梗塞の治療と予防 ～脳ドックの意義～

今月のドクター

脳神経外科部長
佐々木 徹 医師



昨今脳卒中の死亡率は減少していますが、その転帰（退院時の生活自立度）は未だ悪い人が多く、満足できる状況にはありません。これは症例の高齢化によるところが多く、早期診断・治療介入だけでは限界があるものと考えられます。急性期血栓溶解療法（t-PA療法）や新薬（DOACなど）の導入、高度のリハビリ介入により、劇的に改善している人は確かに増えています。一方、高齢者の場合その恩恵が受けられず、治療の甲斐なく寝たきりに近い状態になってしまう人が少なくないのが現状です。

以上のことをふまえると、今後は「脳卒中の予防（つまり脳卒中にならないこと）」がますます重要になると考えられます。脳卒中にはいくつかの^{リスク} risk factor（ある特定の疾病を発生させる確率を高めると考えられる要素）がありますが、その4大疾患は高血圧症、糖尿病、高脂血症、不整脈（心房細動）です。いずれも成人病であり、完治することが難しいため、治療の継続と厳重な管理が必要となります。さらに肥満や運動不足、喫煙など様々な生活習慣も risk factor に挙げられますので、生活習慣を見直す

ことが重要です。

また、当科では脳ドックも行っています。脳ドックは文字どおり「脳卒中の予防」を目的とし、それに特化した検査体系です。その項目は内科的問診、血液検査、心電図と磁気共鳴コンピュータ断層撮影（MRI・MRA）、さらに頸動脈超音波検査を組み合わせたものとなります。risk factor、未破裂脳動脈瘤、^{きょうさく} 脳血管の狭窄の有無、頸部動脈硬化の程度が分かります。11月24日(出)の市民公開セミナーでは、なるべく分かりやすくお話ししますので、ご参加いただければ幸いです。

追記：私はこのセミナーを毎年最後の大事な仕事と位置付けています。このセミナーが終わって年越しの準備に入ります。

<市民公開セミナーを開催します>

■日時／11月24日(出) 開場9時30分・開演10時

■場所／すこやかセンター ■参加費／無料 ※申込不要

■問合せ／市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450